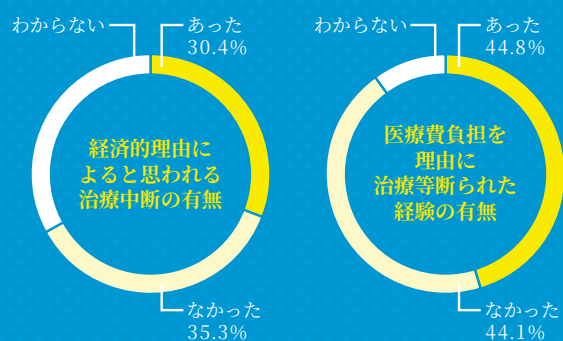


ストップ!! 患者負担増

「社会保障費の充実・安定化」を名目に消費税率が2014年4月から8%に引き上げられ、一旦延期されたものの17年4月には10%への引き上げが予定されています。

しかし、この間、医療費の患者負担は増え続け、さらなる負担増も計画されています。

経済的理由による受診困難ケースも増え続けています。3割の医療機関がこの半年で治療中断を経験していると答えています。



(京都府内の医療機関に2015年12月実施したアンケート結果)

増え続ける医療費の窓口負担(窓口)

2002年10月～	70歳以上の窓口負担が定額 ➡ 1割負担に (現役並所得者は2割に ➡ 06年10月から3割に)
2003年4月～	サラリーマン本人の窓口負担が2割 ➡ 3割に
2006年10月～	療養病床に入院する70歳以上高齢者に負担増 (食費引き上げと居住費追加)
2006年10月～	高額療養費制度の限度額引き上げ
2014年4月～	70～74歳の窓口2割負担に (特例措置の見直し)
2015年1月～	70歳未満の患者負担上限額を引き上げ (高額療養費見直し)
2016年4月～	紹介状なし大病院受診に定額負担 (初診時5,000円以上、再診時2,500円以上)
2016年4月～	入院時の食事負担引き上げ (1食260円 ➡ 360円 ➡ 18年度に460円)

政府が検討している患者負担増メニュー

- UP** かかりつけ医以外にかかれば負担増
● 受診するたびに追加負担が必要に
- UP** 75歳以上高齢者の窓口負担増
● 1割 ➡ 2割、2倍に引き上げ
- UP** 70歳以上の月ごとの負担限度額増
● 高額療養費の上限額を引き上げ
- UP** 医薬品の負担額も増加
● 薬局で買える薬は保険がきかなくなる
● ジェネリック薬と先発薬の差額を患者負担に
- UP** 入院時の居住費徴収で負担増
● 水光熱費(1日320円)を新たに徴収

患者を医療から遠ざける負担増に
医師も患者も反対します。



衆議院議長 殿
参議院議長 殿

さらなる患者負担増計画の中止を求める請願

請願の趣旨

経済的な理由で必要な受診ができない方が増えています。

「必要な検査を断る」「薬がなくなっているのに受診しない」「入れ歯やかぶせ物の処置をためらう」…患者さんの姿です。湿布薬など市販類似薬の保険外しが進められると、患者さんへの必要な処方が困難となりかねません。

さらなる負担増は多くの国民から医療を遠ざけ、とりわけ治療が長期にわたる高齢者の生活を圧迫します。必要なことは今でも重い患者負担を軽減することです。

以下の患者負担増計画の中止を求めます。

請願事項

- 一、受診するたびに100～500円を窓口負担に上乗せしないこと
- 一、75歳以上の窓口負担を2倍にしないこと
- 一、70歳以上の患者負担限度額を引き上げないこと
- 一、湿布薬、うがい薬、痛み止め、漢方薬などを公的保険から外さないこと

お 名 前	ご 住 所

この署名は、憲法16条で保障された請願権にもとづいて行うもので、国会請願以外の目的に使用しません。

ストップ!!
患者負担増